

自由論題5、報告2

報告テーマ

韓国における非伝統的安全保障と感染症対策:「リスク管理」から「危機管理」へ  
“Non-traditional security and infection control measures in Korea: From risk management to crisis management”

氏名(所属)

ベ ユン(慶應義塾大学)  
BAE Yoon (Keio University SFC)

要旨(800字程度)

本研究の目的は韓国の感染症対策から非伝統的安全保障が「リスク管理」から「危機管理」へ移行しつつある文脈とメカニズムを明らかにすることである。

2020年3月1日、文在寅大統領は、日本の植民地時代の独立運動を記念する式典で「今、世界は災害や事故、気候変動と感染症の拡散、国際テロとサイバー犯罪などの非伝統的安全保障の脅威がより多くなっている。一国の能力だけで解決するのは難しい問題である。私たちは、今回のコロナ19の国際的な広がりを介して超国境的な協力の必要性を改めて切実に感じた」と述べた。

韓国は、サーズ(2003年)、新型インフルエンザ(2009年)、マーズ(2015年)など、人間の感染症、そして、口蹄疫(2000年)、アフリカ豚コレラ(2019年)など、家畜の感染症の対策に追われた。2019年、中国の武漢で始めて報告されたコロナ19(2019年)への対応にも取り組んでいる。

日本の国立感染症研究所(2015)は、隣国の先進国で発生したマーズの感染拡大について、急性感染症患者への渡航歴の確認、医療機関での標準予防策の徹底、感染管理体制の整備、住民へのリスクコミュニケーションなどを教訓としている。そして、白井淳資(2011)は、サッカーワールドカップ開催までに口蹄疫発生を是が非でも終息させたい韓国政府は、発生地域から3 km以内の家畜を全て殺処分することにより、早期の撲滅を図った。その甲斐あって、口蹄疫は発生から約1ヵ月余りで早期に終息したが、消毒薬代132億ウォン、畜産農家経営安定資金293億ウォン、移動制限地域内の豚買い入れ資金245億ウォンを費やし、その他の経費も含め口蹄疫撲滅に費やした防疫対策費の総計は1,400億ウォンに達したと述べている。

ところが、こうした視点は、いわゆる専門家集団の事例報告に留まり、社会への影響や政策評価、そして、安全保障までは言及してない。そこで、本研究は、非伝統的安全保障の視点から韓国の感染症対策の諸事例を概観する。

つまり、韓国は、感染症対策という非伝統的安全保障の分野において確率かつ予防的な「リスク管理」に留まらず、いかにそして、なぜ、対応と事後推移まで視野に入れた「危機管理」へ移行しつつあるのか、その文脈とメカニズムの解明を試みる。